

### 平成19年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向		
教科の特性に応じた指導方法を確立し、確かな学力の向上を図る。	1 生徒が確かな学力を身につけられるよう、少人数や習熟度別のクラス編成によりきめ細かく指導する。	○学力の向上を目指したきめの細かい指導体制が整ったか。	○個々の生徒の能力に応じた授業が展開でき、きめ細かい指導ができた。	○来年度より、数ⅠAは2クラス2展開となるので、習熟度別学習をいかに効果的に行うかが課題である。	<p>&lt;学校評議員&gt;</p> <p>○1年生7クラスを8クラス展開し、少人数クラスで授業を行っていることや習熟度別少人数授業は、理解力を高めるうえで有効だと考えます。習熟度別の上位の生徒を更に伸ばすような授業の工夫が必要だと思えます。</p> <p>○研究授業は普段の授業を互いに見合っただけで今後の授業に生かすような形態がよいと思えます。</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <p>○少人数、習熟度別授業は学力向上には有効である。</p> <p>○先生によって教え方が異なる場合があるので更に指導法の工夫をして欲しい。</p> <p>○マークシートの授業評価は実態がうまく伝わらないと思う。</p>	<p>○1年生7クラスを8クラスに展開し少人数授業を実施することで、きめ細かな指導ができ、生徒の確かな学力を身につけさせることができた。</p> <p>○数学・英語で習熟度別少人数授業を展開し個々の生徒に応じたきめ細かい授業を行ったことは、理解力を高めるうえで効果があった。</p> <p>○多様な習熟度別授業を実施し、効果について検討していきたい。</p> <p>○全職員が思考力・論理的能力を向上させる授業を目標として研究授業を行い、職員全体の指導力向上につながった。</p> <p>○シラバスに基づき観点別評価を完全実施することができた。今後さらに充実させていきたい。</p> <p>○生徒による授業評価の実施方法については今後更に研究する必要がある。</p>
	2 「生徒による授業評価」をもとに授業改善を一層進める。	○「生徒による授業評価」の結果をもとに、授業改善がなされたか。	○生徒による授業評価を活用し、年間を通じた授業改善研修を行い、職員全体の指導力向上につながった。	○今年度導入したマークシート方式は、必ずしも生徒の実情を反映していない面もあったので、実施方法を検討する。		
	3 指導力の向上を目指し、研究授業や研修会の内容をより充実させる。	○研究授業や研修会の実施により、指導力の向上が図られたか。	○研究授業を実施し、他教科との効果的な意見交換もできたことで、指導力の向上を図ることができた。	○多人数による研究授業のため、改善に向けた問題点が明確でない部分があったので、実施方法について検討が必要である。		
	4 シラバスに基づく観点別評価を行い、体系的な学習指導を行う。	○シラバスや観点別評価を有効に活用し、体系的に指導できたか。	○シラバスに基づき観点別評価を実施した。	○観点別評価に対する研究をさらに進める。		

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向		
<p>キャリア教育プログラムの実践を通して、夢の実現率100%を目指す。</p>	<p>1 進学意欲を高めるための有意義なガイダンスを実施し、生徒の進路意識の向上を図る。</p> <p>2 キャリアデザインセンターの機能を生徒が有効に活用できるよう体制整備を図る。</p> <p>3 実力テスト等の結果を分析し、生徒の学力把握など進路指導資料として役立てる。</p> <p>4 進学に対応したより高い学力を養うため、学力向上に役立つ講座を計画的に実施する。</p>	<p>○進学意欲を高めるためのガイダンスを実施できたか。</p> <p>○キャリアデザインセンターを利用する生徒は増えたか。</p> <p>○実力テストの分析結果が学習指導や進路指導の役に立ったか。</p> <p>○長期休業中の講習が学力向上に役立ったか。</p>	<p>○キャリアデザインプログラムを全面的に見直し、3年間を見通した指導計画の中でガイダンスを適切に位置づけた。</p> <p>○本校生徒に有益と思われる進路資料を精選し、適切な箇所に配架や掲示をすることにより充実が図れた。 3年担任との連携を図りながら、組織的に運営することにより、生徒がキャリアデザインセンターを有効に利用できた。</p> <p>○生徒の学力を連続的に把握し、学力の向上や継続的な進路指導に生かすため、実力テストの内容を見直した。</p> <p>○講座を、補習的な内容、実力養成、入試対策と分類し、生徒の生徒が参加しやすい環境を整備した。</p>	<p>○新たな「キャリア教育実践プログラム」のもとでの、キャリア教育を展開する。</p> <p>○膨大な送付物の中から、有益な情報を選別する作業の効率化を図る。 キャリアデザインセンターがより快適な空間となるように、新設される準備室の活用などにより環境整備を図る。</p> <p>○実力テストの成績データを適切に処理し、厳重に管理し、有効に活用する体制の整備を図る。</p> <p>○さらに生徒の参加意欲が高まる講座を追求する。</p>	<p>&lt;学校評議員&gt; ○迷っている生徒にこそ適切な進路指導をお願いしたい。 ○夢の実現率 100%を目指し、生徒がもっと高い目標に挑戦するように指導する必要もあるのではないのでしょうか。 ○現役の合格率がもっと上がると良いと思います。 ○補習の参加者を増やすような工夫も必要だと思います。</p> <p>&lt;保護者&gt; ○生徒の関心を高め、キャリアデザインセンターをもっと活用する工夫が必要だと思う。 ○長期休業中の講習や土曜講習は部活との両立が難しい面がある。</p>	<p>○キャリアデザインプログラムを全面的に見直し、新たな「キャリア教育実践プログラム」を策定した。次年度より、3年間を見通した指導計画の中でガイダンスを適切に位置づけ、キャリア教育を展開する。 ○キャリアデザインセンターの運営については、生徒に有益な進路資料を精選し、適切に配置することにより充実が図れた。また、3年担任と連携しながら、組織的に運営することにより、生徒がキャリアデザインセンターを有効に利用することができた。更に次年度新設される準備室の活用などと合わせ、キャリアデザインセンターがより快適な空間となるように環境整備を進める。 ○長期休業中の補習に加え、土曜講習を実施し、生徒が参加しやすい環境整備を行うことができた。 ○実力テストの実施方法を変更し、生徒の学力の把握や分析に着手することができ、進路指導が充実した。</p>

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向		
幅広い人格の形成を促すため、生徒が主体的にかかわる諸活動の充実を図る。	<p>1 生徒会行事や部活動の活性化を図るため、生徒の自主的運営を支援する。</p> <p>2 国際・英語教育の充実に向けて、生徒の主体的かつ具体的な取り組みを推進する。</p> <p>3 「鎌倉の世界遺産登録」にむけて、積極的に活動を行い、拠点校としての役割を果たす。</p> <p>4 マナーやモラルなどについての具体的な改善項目を策定し、規範意識の育成に努める。</p> <p>5 安全管理教育や環境教育・校内美化活動の充実を図り、生徒の豊かな人格形成を目指す。</p>	<p>○自主的運営を支援するための体制が構築できたか。</p> <p>○国際・英語教育の主体的、具体的な取り組みが推進できたか。</p> <p>○拠点校として、有意義な活動を展開できたか。</p> <p>○モラル向上を目指した活動が実施できたか。</p> <p>○安全教育や環境・美化活動の指導に積極的に取り組んだか。</p>	<p>○実行委員会を中心に計画、準備を行って取り組むことができた。</p> <p>○アソルトン高校、AFS留学生などとの交流を通して生徒の異文化理解と国際交流への意識が大いに高まった。異文化理解を目的として、「インドを知る」というテーマで、インド文化に関する講演会や舞踊の鑑賞などを実施した。</p> <p>○ボランティア委員会が鎌倉市内の海岸清掃、寺社の清掃など行うのを指導した。E-提案事業を立ち上げ鎌倉の世界遺産登録を含む地域連携の協働システムを立ち上げ、かまくら学研究連絡会を組織して校外と校内の組織を結ぶ基礎を作らせた。</p> <p>○6月と10月に登校指導を実施した。また、週当番を決め、校内巡回を実施した。</p> <p>○消火訓練・災害時下校班構成などを通し、実効性のある避難訓練ができた。効果的にマニュアルを使用し、災害時の対応を周知することができた。</p>	<p>○実行委員会の立ち上げを早めに行い、計画的に取り組むを行う。</p> <p>○今後も生徒の能力と資質向上につながる国際交流を企画していく必要がある。また、英語圏だけでなく多面的に世界の文化の紹介をし、生徒の視野を広げる国際理解ウィークの設定をしていく必要がある。</p> <p>○校内の各種活動と校外との連携を具体的に進め、地域に貢献できる活動にしていく必要がある。一層の検討を進める。</p> <p>○マナーやルールについてはHR・授業等で日常的に実施する必要がある。</p> <p>○今後も実効性のある避難訓練を実施し、生徒・職員・保護者の防災意識向上に努める。</p>	<p>&lt;学校評議員&gt;</p> <p>○世界遺産登録への取り組みは良いと思います。</p> <p>○国際交流はなるべく全生徒が関わられるようにすることが大切だと思います。</p> <p>○マナーやモラルについての指導も大切だと思うので引き続きお願いします。</p> <p>○訓練が訓練で終わらない実効性のある安全教育をお願いします。</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <p>○学校全体でマナーの向上に努めていく必要がある。</p> <p>○国際・英語教育の更なる充実を望む。</p> <p>○諸活動を通して精神的な成長を望む。</p> <p>○さらに校内の美化に努めて欲しい。</p>	<p>○生徒会行事や部活動の運営では、委員会や生徒会執行部を中心に計画、準備を行って取り組むことができた。更に活性化を図るため、実行委員会の立ち上げを早めに行い、計画的に取り組むを行う必要がある。</p> <p>○アソルトン高校、AFS留学生などとの交流や国際理解ウィークの講演会を通して国際交流への意識を高めることができた。今後更に英語圏だけでなく多面的に世界の文化を紹介し、生徒の視野を広げる国際理解活動の設定をしていく必要がある。</p> <p>○「鎌倉の世界遺産登録」に向けての活動に関連して、E-提案事業として鎌倉の世界遺産登録を含む地域連携の協働システム「かまくら学研究連絡会」を組織することができた。今後は生徒の主体的かつ具体的な取り組みを進めたい。</p> <p>○マナーやモラルなどについては今後も継続してのHR・授業等で日常的に規範意識の育成に努めたい。</p>

学校目標	取り組みの内容		校内評価		外部の意見	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向		
地域社会との連携を強め、地域に信頼される学校づくりを推進する。	1 有益な教育情報を提供できる仕組みと方法を確立する。	○有益な教育情報を提供できる仕組みや方法は確立できたか。	○ホームページはほぼ毎日更新し、最新の情報を提供した。携帯電話対応の掲示板をホームページに設置し、休校等の緊急連絡に役立った。蔵書管理システムを導入し、蔵書データの入力と貸出しのシステムを構築中。	○利用者のニーズをリサーチし、有益な情報提供をするとともに、さらにアクセスしやすいようにホームページの改善につとめたい。	<p>&lt;学校評議員&gt;</p> <p>○鎌倉高校は地域に開かれた学校として根付いていると思いますので、地域との交流を大切にしてこれからもお願いします。</p> <p>○ボランティア活動は単に参加するだけでなく、その目的を理解したうえで活動することが重要だと思います。</p> <p>○ホームページをさらに利用しやすいようにお願いします。また、学校説明会を工夫するなどして鎌高の宣伝に努めてください。</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <p>○ボランティア活動は積極的に行って欲しいが、自発的な参加が重要だと思う。</p>	○ホームページによる情報提供や学校見学会、学校説明会、学校へ行こう週間、地域貢献活動、福祉活動、鎌倉世界遺産関係などボランティア等の諸活動により、地域に開かれ、地域に根付いた学校という評価を得ることが出来た。今後もそれぞれの取り組みを継続して、地域との連携を強め、地域に信頼される学校づくりを進めたい。
	2 学校見学会や学校説明会の内容に工夫を凝らし、学校の教育活動への理解を促す。	○学校見学会や学校説明会の内容は精選されていたか。	○学校説明会を2回、学校見学会を4回実施し、本校生徒が説明するなどの工夫をし、好評を得た。また、学校へ行こう週間を利用して授業公開を行い、本校の教育活動を広めた。夏季休業中から9月にかけて中学校訪問を実施し、本校の広報活動に役立てた。	○冬休み中の見学会が受験生にとって有効だったが、見学会は自由参加の形態をとっており、受け入れ側の対応が難しく、今後は定員制を考え、回数を増やしながら申込み制としたい。中学校訪問の時期について、適当な時期を調査し、中学校のニーズに応えたい。		
	3 地域での体験活動やボランティア活動に、多くの生徒が意欲的に参加できるような体制を整える。	○ボランティア活動などへの生徒の参加を促す体制は整ったか。	○地域貢献活動、様々な福祉活動、鎌倉世界遺産関係などボランティア委員会を中心に紹介し、多くの生徒が参加した。	○ボランティア委員会との連絡、調整を密にして生徒が参加しやすい環境をつくり、活動を促進する。		
	4 鎌倉市内の県立高校四校連携教育活動を通して、学校の枠を超えた継続的な教育活動を展開する。	○連携する他の三校とともに充実した教育活動を展開できたか。	○海岸清掃、寺社の清掃などボランティア委員会で行った。部活動での4校戦を実施し、交流を深められた。オープン講座・大学出張講座ともに、盛況であった。	○今後も企画を継続し、4校との調整によって生徒のニーズの高い企画を検討する必要がある。		